

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名 人口減少下における都市構造に関する研究	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者 : 立命館大学理工学部 教授 春名 攻	
意見の概要	意見に対する対応
<p>1. 人口減少社会において集約型都市構造への転換の必要性が認識される中で、そのような都市構造について具体的に把握することが困難であるが、具体の市町を対象として将来のシミュレーションも実施し明らかにしている。</p> <p>2. 本研究では、都市構造の構成要素として人口分布に焦点をあてているが、交通関連施設は重要な要素として検討すべきではないか。</p> <p>3. 第2章において、公共施設等の整備水準を求める際に、可住地面積ではなく、市街化区域、市街化調整区域等の区別で行うことも考えられるのではないか。</p> <p>4. 第3章の都市構造を評価する指標については、都市財政の観点から効率性が考えられるが、そのような評価指標を用いることも検討できるのではないか。</p> <p>5. 第3章の都市構造の評価として、都市全体としての公共施設利用に関わる利便性評価としての平均距離を考えると同時に、地区間の格差についても検討してはどうか。</p>	<p>1.</p> <p>2. 本研究では人口分布と居住に着目し、土地利用規制の観点から分析を行うこととした。今後の検討としたい。</p> <p>3. そのような検討を行ったが、データの制約上、可住地面積で行うこととした。</p> <p>4. 財政的なコストの算出には、必要となるデータの入手と算出のための作業が必要となるが、都市・地域整備局で都市財政の観点から分析を行う予定があったため、当方では違うアプローチを検討し、公共施設利用に関わる利便性に着目することとした。</p> <p>5. 公共施設への平均距離に加えて、地区間の距離の格差についても、評価指標を算出することとした。</p>

有識者意見の概要及び意見に対する対応

<p>6. 第3章において、平均距離を求める施設として市役所以外にも検討できるのではないか。</p> <p>7. 時限的な制度だけでなく、暫定的な制度という概念で捉えると、考えられる制度があるのではないか。</p>	<p>6. 市役所以外の施設も検討したが、市によって施設数や立地場所にばらつきがあり、比較分析が複雑になることから、唯一の施設であり、立地場所もある程度共通する市役所を選んだ。</p> <p>7. 誘導容積型地区計画、生産緑地制度、暫定逆線引き等の制度について調査することとした。</p>
---	--